

戦争と平和のおはなし会 松倉小学校

平成28年7月15日(金)に、松倉小学校6年生を対象として「戦争と平和のおはなし会」を開催しました。

まず最初に、音と視覚から戦争の実相を捉えるため、原子爆弾の悲惨な被害を伝えるDVD「被爆の爪跡」を視聴しました。



次に、図書館の朗読ボランティア「おはなしを楽しむ会」の皆さんが朗読される被爆体験記や原爆詩を静かに聞きました。

**原爆詩や被爆体験記は
現代では考えられない
とても辛く、悲しい内容で、
聞いている子どもたちの
表情は、真剣な眼差しで
一言も聞き逃さないような
面持ちでした。**





おはなしを楽しむ会の方からもんぺや防空ずきんを使い、戦争当時の様子について説明してもらいました。

日頃聞くことのない魚津の戦争に関する実体験を知り、興味深く聞いていました。



今度は、自分たちの住む富山大空襲の被害について学ぶため、被害にあわれた方の体験記「あの日も猛暑だった」を紙芝居で聞きました。



自分たちの住む富山県でも大変な被害を受けた空襲があったことを知り戦争を身近なことと捉えることができました。

被爆地ヒロシマへ現職のアメリカ大統領として初めて訪問されたオバマ大統領の様子についての説明を受け、平和な世界を実現するために自分たちができることを思い描いている様子が見られました。



最後に、参加者全員で原爆詩を朗読してから、原爆や戦争で亡くなられた方のご冥福と世界の平和を祈り黙とうをささげました。



子どもたちから感謝の言葉とおはなし会を終えた感想を聞くことができました。また、おはなし会終了後には、会場に設置してある原爆被害のポスターや戦時中の資料を大変興味深く見ていました。



魚津・松倉小 児童12人学ぶ

原爆、富山大空襲 語り継ぐ

魚津市松倉小学校で十五日、「戦争と平和についてのおはなし会」があり、六年生十二人が、広島原爆投下や富山大空襲の戦争体験記に耳を傾けた。

魚津市内のボランティアグループ「おはなしを楽しむ会」が、原爆投下当時、広島郊外の病院で被爆者の看護をした今井泰子さんの体験記を朗読。水が飲みたいと懇願し、一口飲んだ瞬間に息を引き取った際の悲痛の少年をみとった際の悲痛の思いを読み上げた。



「おはなしを楽しむ会」の会員の朗読に耳を傾ける児童たち。魚津市松倉小で

7月16日
中日新聞

た。助かりたい一心で念仏を唱えている大集団の中に焼夷弾が落ち、多くの命が一瞬で奪われるのを目撃した衝撃や恐怖を伝えた。最後に、児童たちは全員で「戦争反対」と題した詩を朗読し、戦没者に黙とうをささげた。岩城慶志郎君は「戦争でたくさんの方が亡くなった話を聞き、生きていることが幸せだと思っただ」と感想を話した。
(伊東浩一)

戦争と平和について考える

魚津 魚津市で読み聞かせなどを行う「おはなしを楽しむ会」(大崎恵美子代表)は15日、同市松倉小学校で「戦争と平和についてのおはなし会」を開き、6年生11人が戦争の悲惨さや平和の大切さに理解を深めた一写真。

戦争を知らない子どもたちに戦



時中のことを知ってもらおうと行っている。

児童は原爆投下や富山大空襲で被害を受けた人の体験記や詩の朗読を聴いた。原爆の被害を説明したDVDも視聴した。

戦時中に使用したヘルメットや飯ごうを見学したほか、世界各国が保有する核兵器の数を学んだ。

7月16日
北日本新聞